

# 青少年おきたま

第53号

令和6年7月19日



米沢市 育てよう米沢の心 環境づくり懇談会



長井市 図書類調査一斉活動



南陽市 熊野の夏祭り会場での街頭補導



小国町 夏祭りでの巡回指導



高畠町 町内スーパーでの街頭啓発活動



白鷹町 「ふだふだ市」での啓発活動



川西町 小学生新春書初め大会



飯豊町 飯豊中学生徒会の発表（町民会議総会）



# 「子どもは社会の宝」

置賜地区青少年育成連絡協議会

会長 山口 和夫

この度、置賜地区青少年育成連絡協議会の会長に選任されました。協議会を構成する置賜地区三市五町の各青少年育成市町民会議および青少年育成推進委員会の代表ということを考えますと、その重責に身の引き締まる思いですが、自分の浅学非才を顧みず、皆様のご期待に応えられますように努めて参ります。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

各青少年育成市町民会議および青少年育成推進委員会の皆様には、日頃より青少年の健全育成にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

お陰様で、置賜地区では青少年に係る重大な事案は見聞きしませんが、東京では、夫婦が殺害され、那須町の河川敷で焼損遺体として見つかるという残忍な事件が起きました。実行犯として逮捕されたのは、二十歳の青年二人でした。凶悪事件の実行犯として、若者が都合よく使われるというのは、闇バイトの構図とよく似ているなと思いました。他にも、青少年に関わる私たちに

とつて、見過ごせないニュースが目に入りしました。四月二十四日、「人口戦略会議」が全国にある一、七二九の自治体のうち、四割を超える七四四の自治体が「消滅する可能性がある」という分析結果を公表しました。山形県内でも三十五市町村のうち二十八市町村が「消滅する可能性がある」と自治体に分類され、人口減少の深刻さが浮き彫りになりました。置賜地区では米沢市と南陽市が、かろうじて免れましたが、それでも人口減少は確実に進んでいます。

ちなみに、「人口戦略会議」の分析では、出産の中心世代となる二十歳～三十九歳女性が五十%以上減少する自治体を「消滅する可能性がある」と定義しているそうです。

ただ、赤ちゃんが産まれないというのは、若い女性だけの責任ではなく、「子どもは社会の宝」として、社会全体で子どもを支えていくという視点がとても大事だと思います。子どもの数がたとえ減ったとしても、青少年の健全育成の重要性は、決して変わらないと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 第一回置賜地区青少年育成連絡協議会

五月二十一日、置賜総合支庁講堂にて、「第一回置賜地区青少年育成連絡協議会」を開催しました。

本協議会では役員改選が行われ、新体制が決定しました。(3ページ参照)これまで長年にわたり、多大なご尽力を賜りました安達英一様(前会長)、中村孝律様(前副会長)、高橋雅明様(前監事)には、心より感謝を申し上げます。青少年を取り巻く問題は深刻化し、薬物乱用や闇バイトなどの問題が起っています。このような状況の中で、「置賜は一つ」を合言葉にし、社会全体で青少年の健全育成を推進することが確認されました。

本年度の事業計画では、いじめ・非行をなくそう、やまがた県民運動と「大人が変われば子どもも変わる」県民運動に重点的に取り組むことが議決されました。また、「置賜地区青少年育成推進員研修会」は高島町を、「児童生徒と地域の大人の対話会」は長井市を会場に準備が進められていることが報告されました。



## 年間事業計画

- ◆ 第一回青少年育成連絡協議会 (五月二十一日 置賜総合支庁)
  - ◆ 社教振・青連協・高島町青少年育成町民会議 合同研修会 (六月二十九日 糠野目生涯学習館)
  - ◆ 「青少年の非行・被害防止全国強調月間」 (七月)
    - ◆ 「明るいやまがた」夏の安全県民運動 (七・八月)
    - ◆ いじめ・非行をなくそう、やまがた県民運動・「大人が変われば子どもも変わる」県民運動重点期間 (七・八・十一月)
  - ◆ 有害図書類一斉調査 (七月六・七日を目安に)
  - ◆ 「いじめ防止」標語審査会 (七月六・七日を目安に)
  - ◆ 第二回青少年育成連絡協議会・研修会 (九月十一日 置賜総合支庁)
  - ◆ 県青少年健全育成県民大会 (十月二十七日 村山市民会館)
  - ◆ 「秋のこどもまんなか月間」青少年健全育成キャンペーン (十一月)
  - ◆ 置賜地区青少年育成推進員研修会 (十一月二十四日)
    - ◆ 高島町糠野目生涯学習館
  - ◆ 生徒と地域の大人の対話会 (十二月二十二日長井高校生と対話)
  - ◆ 第三回青少年育成連絡協議会 (二月十九日 置賜総合支庁)
- ◇ 広報・啓発活動
  - ◆ 「青少年おきたま」発行
  - ◆ 「青少年専門員だより」発行
  - ◆ 広報車による啓発活動
  - ◆ 有害図書類・携帯電話立入調査

# 令和六年度 役員紹介

## 地区青少年育成連絡協議会

- 会長 山口 和夫
- 副会長 齋藤 芳昭 鈴木 昌克
- 監事 鈴木 正人 清澤 穰

## 市町民会議会長（上段）及び推進員会長（下段）

- 米沢市 山口 和夫 高橋 宮一
- 南陽市 松本 正彦 後藤 優美
- 高島町 清澤 穰 清澤 穰
- 川西町 遠藤 勝則 金子 達
- 長井市 平 みわ 鈴木 昌克
- 小国町 / 高橋 義彦
- 白鷹町 齋藤 芳昭 齋藤 政幸
- 飯豊町 鈴木 正人 伊藤 昭

## 事務局

置賜総合支庁保健福祉環境部  
子ども家庭支援課

- 課長 布宮 千夏
- 課長補佐 遠藤 直記
- 主事 中西美香代
- 青少年専門員 梅津 洋
- 青少年専門員 峯 浩明



## 「あらゆる機会を

## 活用し連携し」

川西町青少年育成町民会議

会長 遠藤 勝則



近年、青少年を取り巻く大きな流れが二つありました。一つは令和四年四月の民法改正です。成人年齢が満二十歳から十八歳に引き下げられ、これに伴い「主権者教育の推進」として選挙権年齢も満十八歳からとなりました。川西町ではこれに

## 提言

## 「子ども達から学んだこと」

飯豊町青少年育成推進員会

会長 伊藤 昭



私達飯豊町の青少年育成推進員は各地区から選出された男性五名、女性一名から構成された計六名で活動を行っております。主な活動内容として白川ダムマラソンへの協力、町内コンビニの有害図書調査、めざましの里まつりでの防犯パトロール、各地区での公民館事業への協力などを

先立ち令和元年度の国政選挙から町内全投票所の投票立会人の一人を公募による十八歳前後の若年者とし、社会の一員としての自覚の醸成を図っています。国の動きの二つ目は、令和五年度のこども家庭庁の創設です。省庁を横断し「こどもまんなか社会」の実現を目指し、こども・若者の声を政策に反映することを推進するものであり、本町では川西中学三年生と町長との懇談会が実施されましたが、今後、国の動きを背景に青少年育成の取り組みは一層注目されるものと思っています。さて、私たち川西町青少年育成町民会議は、町内七地区から推薦された委

員で構成する青少年育成推進員会とともに、県民運動の趣旨に則り、かわにし夏まつりでの啓発・巡回指導やコンビニエンスストア有害図書類調査、防犯標語公募、小学生新春書初め大会等を行うほか、環境フェアでの広報活動や防犯・防災推進を図る町民生活安全大会での少年の主張発表などを実施しています。著しい少子化、核家族化、地域連携の希薄化等が懸念される中、これからの活動推進を図るためには、あらゆる機会を活用し県はもとより各種関連団体、イベントと有機的な連携を図ることが大事だと思います。

行っています。

近年はコロナ禍も落ち着き、以前から行われていた各地区での行事やイベントなどが開催され、地域の子も達とも直接関わることが多くなってきました。昨年度は飯豊町青少年育成町民会議での中学校生徒会の皆さんの発表であったり、「しらすさぎ庄ふるさと温泉まつり」でのボランティア活動等がありました。

そんな中気付いたことは、子ども達の主体性の高さでした。先生や周りの大人に頼らず行動、発言をし、何事にも責任感を持って取り組む様子を見て非常に感心しました。また少子化が進み子ども達の数が減

る中、一人ひとりがとても大きな声で挨拶をしてくれて大人達も圧倒され、いつもより大きな声で挨拶を返すことができました。県民運動のスローガンとして「大人が変われば子どもも変わる」とありますが、子どもの行動や言動で大人が変わる事もあると気付きました。これからは自分たち大人が積極的に子ども達とコミュニケーションを取りながら、彼らが自ら考え、行動できる機会を与えることで、さらなる主体性を育む事が重要であると思います。そして互いに良い方向へ変わって行くことで、地域や社会も変わっていくと思います。